

年間を通しての視聴「時々迷々」

奈良県香芝市立旭ヶ丘小学校 教諭 松本 慶

小学校4年 道徳 「時々迷々」

【活用回・番組紹介】「アナタモワタシモハーモニー」

幼いころからセージとヒサコは美しい歌声を響かせあってきた。気持ちの交流を考えるを通して、友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする。

【授業デザイン】信頼・友情

1 番組を視聴する。

「登場人物」「あらすじ」を知らせ、自分自身の生活に置き換え考えさせることで、学習意欲を掻き立てる。その後、番組視聴をする。

2 感想を出し合い、板書で整理する。

視聴後、ワークシートに自らの考えを書く時間（5分程度）をとる。その後、意見交流し自らの考えを再度見つめ直す。書きにくい・意見を出しにくい児童には支援を行う。

3 焦点を絞った話し合いを行う。

児童の考えと本時のねらい（道徳的価値）を考え、ポイントを絞り「発問」をする。

※ 番組内容と価値を考慮し、発問をしぼり、授業の流れに応じて発問をする。

一人で歌おうとするヒサコを見て、迷うセージの立場での考えを交流する。その際、考えをまとめるのではなく、お互い考えを認め様々な考えがあることを知るようになる。その後、全体で意見を出し合い、話し合う。

第30回「アナタモワタシモハーモニー」（信頼・友情）
発問：「あなただったら、に行く？」

ヒサコが一人で歌うのはかわいそうだから、いっしょに歌う。

ヒサコと二人で歌っていたことをみんなに知られたらはずかしい。

4 まとめる。

児童の考えやつぶやきを大事にしながら、道徳的価値についても確認し、日常生活での振り返りの場を提示する。番組内容と日常生活との関連について、考えさせることでより自分の課題として考えられる場を設ける。

【成果と課題】

「時々迷々」を年度当初、年間視聴計画を立案した。これまで放送番組を視聴する経験が余りなかったので、番組視聴をしながらワークシートに書くこと、視聴の仕方から指導をした。1学期は落ち着いて視聴することやワークシートの書き方、意見交流もスムーズにできず時間が不足することが多々あった。2学期になると児童もスムーズに番組を視聴し、学習に取り組むことができた。「時々迷々」の視聴を心待ちにしている児童も増え、意見交流も活発になった。児童の心の中で生まれた「葛藤」に対して上手く表現、考えをまとめることできないこともある。その中でどうしたら良いか、どう行動すれば良いか日々の生活の中で生まれる「葛藤」と対峙して向き合う心を育みたい。

【本学級の学習スタイルと実態と関連したねらい】

- A 学びを意味づけてから行動するのが得意 13%
- B 行動しながら学びを意味づけるのが得意 61%
- C 時間をかけて学びを意味づけるのが得意 26%
(スタイルから、番組活用におけるポイントを明示する。調べてない場合には、学級の実態を記す。)

【今回の実践における番組効果】

(9) 日常生活指導において共通の関心や問題意識をよび起こして問題の解決を容易にする。

(d) 日常的な事柄に対して、新たな見方や感覚を与えて、課題を発見する。

【深い学びに関する教師の工夫】

○ワークシート

年間を通して番組を視聴するにあたり毎回ワークシートを用意した。番組を視聴しながらワークシートを書かせたが、年度当初は短文で書き終わる児童が多く見られた。考えを深めたり、他の児童の考えを聞き揺さぶられた、心の葛藤を書き表したりすることは容易ではなかった。しかし予め考えうる優等生的な考えを例示しても児童の成長は図れないと考えアドバイスはするが方向性を指し示すことはしなかった。2学期も半ば11月頃になると、視聴する様子が少しずつ変わり始めた。視聴しながらつづやく内容も変容してきた。集中して視聴し登場人物の様子を捉え心情を考えられようになってきた。ワークシートに書く内容も短文ではなく登場人物の心の揺れを感じ、自分自身に置き換え書き表すことができる児童が増えてきた。このころになると意見交流も活発になり白熱することも見られた。

毎時間書いたワークシートはファイルに綴っている。児童にとっても振り返りや今までの学習を見つめ直す大切な財産となっている。



○まなボード

本校ではまなボードを学習で利用している。まなボードを用いることによりグループ、クラスでの意見交流を活発にし理解を深め、視覚的効果も高くなっている。使用法として、まなボードに拡大したワークシートを挟みグループで考えたことを書き発表している。1人1人が考えた意見をグループで共有し、理解を深め般化のために欠かせないツールの1つである。

